

あまでうす

『ふれあい
コンサート』

毎年、(ぎふしんふれあいコンサート)をサランカホールで聴いている。今回は、十七世紀から十八世紀に活躍した、イタリアの名工としてあまりにも有名な、ストラディヴァリが製作したヴァイオリン、ストラディヴァリウスの響きで名曲を聴くコンサートであった。演奏に使用されたのは、ヴァイオリンに塗られた赤いニスの色合いからレッドダイヤモンドと呼ばれる、一七三二年に製作されたヴァイオリンだという。ストラディヴァリは、ヴァイオリンだけでなく、ヴィオラや

チェロなども作っている。演奏者のヴァイオリニストは、磯絵里子氏。ピアノは、永野光太郎氏。司会者は、テレビやラジオで活躍している浅岡聡氏の分かりやすいプログラム解説で、第一部、エルガー作曲「愛のあいさつ」、ヘンデル作曲「ヴァイオリン・ソナタ第一番」、ドビュッシー作曲「ヴァイオリン・ソナタ」。休憩を挟み第二部、ラフマニノフ作曲「ヴォカリーズ」、ショスタコーヴィチ作曲「2つのヴァイオリンのための5つの小品」、ファリヤ作曲「スペイン舞曲」、そして最後は、バッハ作曲「無伴奏ヴァイオリン・ソナタ」シヤコログナムであった。

今回のメインとなる曲は、やはりバッハの「シヤコログナム」であろう。およそ17分はかかるこの曲は、無伴奏ヴァイオリン・パルティータ第二番の終楽章で演奏される曲で、スペイン領の新大陸が起源のダンスだと言われている。ヴァイオリニストの弾くストラディヴァリウスは、艶があり、深煎りのコーヒーのような味わい深い響きに聴き入ってしまった。と同時に、一九九四年に製作された、フランス、ベルギー、ドイツ合作の映画『無伴奏シヤコログナム』が、走馬燈のように蘇ってきた。

この映画の簡単なあらすじをいうと、活躍してきたヴァイオリニストの彼は、芸術家としての自己疑問を感じるようになる。同じ仲間のヴァイオリニストが自殺したことをきっかけに舞台から降りて、本当の意味を追求するために、メトロの構内を身をおき、そこをコンサートホールとして自分の欲求のままに演奏を続けるが無関心さ、邪魔者扱いをする警察官、さらに大事にしていくヴァイオリンまで叩き壊されるあり様。そんな中で救いとなるのが、ひとりの女性との出会い……。

過去に3度ほどアナログ時代のテレビから録ったビデオで観ているが、この機会にもう一度観てみることにした。この映画は、名器「レッド・ヴァイオリン」も観たことがある。(小説も読んでいる)この映画は、名器「レッド・ヴァイオリン」にまつわる歴史絵巻のような物語で、代々の持ち主に呪いのような命を、ミステリアスに描いている。

風地蔵新聞

第184号
題字 岩瀬桃谷
発行 編集
風地蔵
白石 美帆
〒503-0922
岐阜県大垣市
馬場町85
ご感想・エッセイ・お
セー・俳句など
短歌待ちます

こんな私に

大橋 美紀

1月の中旬、私が仕事から帰ると、主人が「〇〇さん亡くなったよ」と私の顔を見るなり言った。ご近所の方で、60代後半の男性である。私達がこの部落に越してきた後、この男性もご家族と実家のあるこの部落へ新築され越されて来ました。色々気にかけて下さって、よく声をかけてもらいました。

23年前に亡くなった主人の父に、よくしてもらったんだよとよく言っていた。やいませ。黒の柴犬を飼ってみえたのですが、よく脱走するワンコちゃんでは、私も度々あてお散歩に行く様になつてから朝の散歩では、よく会い、お話をすることも度々ありました。そして家に私の車が停まると、私の車が停まると、「これ美味しいよ」とお菓子を持ってきてくれたりと、人懐っこい方で

した。何年か前に「ガン」が見つかり、通院しながら病気と向き合っていました。ある朝の事です。一枚の紙を手を持ち、私の所に来たのです。そこには、私は余命1年と2年です。まだ独身である息子の事が心残りだと言う事が書かれていました。この手紙を書こうと思つた前夜に色々考えて、あふれてしまったのでしよう。いつもニコニコしていたおじちゃんが私の前で泣きじゃくりました。多分、強くないと思つたおじちゃん

は家族にも、友にも言えない思いが止まらなくなったのでしよう。私は、掃除をする手を止め一時間以上おじちゃんの話聞きながら少し落ち着きました。少し落ちてきました。その日から、私は今まで以上におじちゃんには、普通で居る様にと、顔をみると声をかけ内心では(今日も元気でよかつた)と思ひ、一年が経ち、と日々は過ぎていきました。亡くなる一週間前に入院された事を聞きました。いつ亡くなつてもという状態だと言ふ事も聞いていました。本当に、別れの時は来たのです。仕事から戻つたその

足で、お宅へと伺いました。そこには、真つ白な布団で、永遠の眠りとなつたおじちゃんの姿が、もちろん見た事のない姿。私は手を合わせ「おじちゃんさよならやね」「色々、こちらこそお世話になりました」とお別れを心の中で何度も繰り返して伝えました。今、私の手元にその手紙があります。息子さんが結婚され幸せをつかむ日まで私は、大切に握っています。ようと思つています。

お正月の出来事

佐藤 凱翔

2019年。平成もいよいよ終わり。そういえば元号がかわるまでの間は、平成31年になるのだろうか。それとも〇〇年？〇〇1年？そんな事を考えながら年明けしたパパ。お正月の家族旅行は、鹿児島。指宿、九州の南。さあ食って温泉入ってまた温泉入るぞ！まずは、パソおやじさんから教えてもらった天文館のトンカツ店で食う。鹿児島といえは、黒豚。やわらかい肉。やわらかい肉を食べるパパ・ママ・じいちゃん・ばあちゃん。それを見てプンプンのおおちゃん。顔を真っ赤にして「うーっ」という。「おおにも食わせるー」「うーっあつー」「早くくれー」。そんな感じでプンプン。おおちゃんも先に離乳食食べたんだけだね。食いしん坊。おおちゃんも食べ過ぎ。自我が芽生えていい事。もう少しで、食べれるようになるよ！

その時は、パパのもらんちゃんのも横取りしちゃえ！ママのは、絶対横取り禁止。本気でプンプンしちゃう。一日中。そんなかわいあいとおちゃんもなぐさめ、指宿へ。去年の大分の旅館みたい今年も、熊本黒川温泉「のし湯」とくらべて評価するママ。ちよつとガツカリ。じつは、一番楽しみにしてたママ。期待しすぎ。まあ、それなりに楽しもう。

第184号

黒川は、黒川の楽しみ方。指宿は、指宿ならではの楽しみ方。さて、砂風呂。砂風呂は10分が目安だと。砂をかけられ1分2分3分くらいかな？じわじわとあつたまってきた。あつたかいふとんにくるまれている感じ。ついついウトウト。気持ちよすぎる砂風呂！らんちゃんとおおちゃんももう少し大きくなったら入ろうね！

オサルさんみたい。お湯は少し塩っ気のあるお湯。しよっぱいけどこれもまたいい。あつたまつた所で夜ご飯。メインは、黒豚のしゃぶしゃぶ。黒豚もいいけど旅館オリジナルの豆腐。これがうまい！クリーム。そして濃厚。チーズかと思うほど。黒豚にまけないくらいうまい。パパの一番は豆腐できまりだな！「めしはまじでうまい！」とママもじいちゃんも口をそろえる。早くも朝ご飯が楽しみな！ご飯後は貸し切り風呂。どこよりも豪華な作り。広々とした部屋。そしてトイレは、全自動。ガソリンスタンドでしか見た事ない全自動トイレ。ウィーンと開くのがかっこいい。50分と限られた時間いっぱい入るママ。超満足。ふかふかの布団でスヤスヤ。しっかりおやすみ。

そしておまちなね、朝8時の朝食。白米王決定戦。本命はじいちゃん。「朝食のために夜はひかえめにした」との事。いちはおおかわりしたのは、やはりじいちゃん。後を追ってばあちゃん。ママ。みんな2杯は当たり前。あー。ママがらんちゃんめんたいこに手をかけた！パパもほしいのに。半分くてもいいのに。そして3杯目。ばあちゃん2杯で終了。じいちゃんママの一騎打ち。どっちが勝つのか？勝負は3杯目終わり4杯目。ここでじいちゃんギブアップ。記録は3杯。ちなみにパパも3杯。そんななか4杯たいらげたママ。世界新記録。平成最期の白米王は、ママ。大どんでん返しを見たせたママ。なんだかんだ1番楽しんだかパパは思う。来年の白米王はだれだ！

川風

しらいしみほ

そんなこんなで目安の10分くらい。あがつてみると汗ビツショリ。体はポカポカ。こりや最高。さて旅館の風呂も入ってみるか。あとおちゃんはパパとじいちゃん。らんちゃん。ママは、後で。温泉にゆたあーつと入るあおちゃん。だいぶ温泉になれたあおちゃん。パパにびたあーつとひつつき極楽極楽。

ボヘミアン・ラプソディを遅がけながら、水曜レディースデイにひとり観に行った。ネットが騒ぐ作品は避けたくるので、なるべく早く観たかったのに今になつてしまつたのには理由がある。福岡に絵手紙を広げられたと言われる絵手紙歴の長い長老の先生が「クイーン」の歌は3曲くらいしか知らなかったけど楽しかったわ」と話されたのである。衝撃的だった。観にいかけたのだ。その行動に背中を押された。クイーン世代から少しずれている私だから、スクリーンに映るクイーンが役者じゃなくて本物にしか見えなかった。切ない主人公の生き様。

映画「悪人」も8回映画館に見に行ったが、寝ても覚めてもフレディーマーキュリーを考えると、はまつたかもしれない。そこで、今を生きる日本の70才のスターに飛ぼう。沢田研二ことジュリーだ。昨年平日の夜、県境に引越した佐賀県がスゴク近くなった私。佐賀バルーンに行つた時佐賀のコンサート情報で目にしたのだ。これも一人で行つた。観客は60〜70代が多数。知ってる曲は歌わないと聞いていたが、初っぱな、カサブランカダンディーでぶっ飛んだ。そのあとは、一曲づつていねいな挨拶やトーク、知らない曲なのに地から響くヴォーカルの凄さに沢田研二の濃い人生を見せてもらってるもったいないくらいのショーだった。帰りに、駐車場へ急ぐ人並みにまぎれこ

む。「やっぱ、すごいなジュリー！」その声を振り返ると老夫婦だ。奥さんに向かつてなのか、九州男児。ぼそつとだが興奮してはき出された。車に乗ってすぐジュリーの余韻にシングルベストCDをかけてすぐ止めた。なんだこれは。あのスター絶頂の時の歌が、安っぽく細く、つまらなく聞こえるのだ。な、なんだあの声は！！

聞きながらも感じたであろう興奮は、今70才の沢田研二だから出せる、聴かせの歌であり最高のヴォーカリストなんだとハツとした。見た目は昔のジュリーを見る面影は全くなく、衣装もピエロのど派手な衣装で誰が誰かも分からないし、まったたくかつこよくはない。なのに、聴覚が色っぽさをつかみ取り、声は力強くそれでいて若い頃の色気のある沢田研二であり、ずっと聴いていた感情になる。騒がれているのは、ゴシツプ好きの宙ぶらりんがそれに食らいつく人間に書いたもので、ネットの記事のいい加減さに本物のライブを聴いた事があるか！と反論したくなるものだった。フレディーマーキュリーが、今映画でヒットするのも当然の事なのだろう。

帰りに、駐車場へ急ぐ人並みにまぎれこ

ちよつと立ち話

これおもしろいよね。又もらっていてもいい(2日目来店のお客様)

いつもネットでみてるのよ。おもしろくて仕事中にふきだして、周りの人にへんにおもわれるのよ。(エステのお客様)

九州旅行、いったつもりになってます。(エステのお客様)

お便りします

素晴らしい賀状ありがとうございました。里音さんの事、新聞で拝読しています。

(風地蔵新聞題字の書家 岩瀬 桃谷先生)

風地蔵新聞楽しく拝見させて頂きました。何時

もありがとうございます。(太宰府市の中野さん)

新聞お便り有り難うございます。今年も健康で楽しい年で有りますようにお祈りします。又よろしくお願います。(太宰府市の人見さん)

楽しみにしている新聞は、皆様のご活躍が見える様です。頭が下がります。寒い中お体大切に過ごして下さいませ。(筑紫野市松尾さん)

あまでうすさんは、いつも風地蔵に来られる度アイデアがいつぱいの手作り時計や写真も撮られる方なので素敵写真も見せて頂いています。写真たても手作りされていていつも頭の中では、写真の事や、時計の事を考えていらつしやいます。次、いらつしやる時はどんな物を見せて頂けるのか楽しみです。本当に子育ては親が育つものです。若いお父さ

ん、お母さんですがよくやつてらつしやるというも感心です。

店長の九州旅行、メインは還暦祝いです。赤のチャンチャンコを着られたそうです。少し苦笑いの店長の顔が浮かびます。(大橋)

こうして姉妹仲がいいのは、読んでいてほほえましいですね。ここに書いてある以上の事を私はきいているので、ついつい読みながら笑顔がこぼれます。りーちゃんのこととは、かいと君がしらない事もあるよ。子どもの頃は、あまえたい時はよく寝たふりしていました。(笑)

奥田さん、年をかさねる事に、人の死には直面しますね。涙できりかえるの、わかる気がします。あまでうすさん、明治村いってみたいになりました。

(鎌澤)

おかあさん、もう新聞できたよ！今回は、1行づつしかり変換ミス見直したけん、間違いはないよ。(りおん)

いや、このパソコンになつてからぎっくり腰が恐くつて、李恩にみんなの原稿を入力してもらってますが、間違いの字だらけだと指摘を受けてビックリ！編集長たるもの、仕上がりを確認もせず、申し訳ありませんでした。そして見直すと、なんじやこりゃ。自分で打つてみると、何でこの感じが出る？ほらね、こんな感じで「漢字」ってでないんです。最新のパソコン、文章を読み取らないの？とパソコンに当たりながら1月号は書き直しました。そうそう。最近、みんなの文章から肩の力が抜けて、クスツと笑った

り、ううつと泣きそうになつたりしています。会えば、ポーカーフェイスの人でも、心の中には熱いものがあるのだなど、文章から伝わります。絵手紙教室の皆さんが感想を書いて下さっているおかげで、この頁のコーナーが盛り上がります。

もっと大垣の人の方が読んでる人が多いので、是非感想をお寄せ下さい。九州出身の私が、こうしてみんなに支えられ、大垣の地で素晴らしい仲間と出会いました。店長は電話では、杉原先生が、こう言つてらつしやいましたよとか、森先生がこう言つてらつしやいましたよと、九州の私達の生活を感じて話してくれるのに、ここには書いてないので忘れていたのでしよう。みなさんの感想はもちろん、エッセー、日常の事、俳句短歌、独楽吟、あ、絵手紙もお待ちしております。(みほ)

介護って

佐藤 李恩

まず、認知症とは、いろいろな原因で脳の細胞が影響される事によりさまざまな症状が起こり、生活する上で支障をきたす事を言います。

認知症で主にあげられる3大認知、アルツハイマー型認知症・レビー小体型認知症・血管性認知症です。今では、4大認知といわれ、前頭側頭型認知症もあげられています。

アルツハイマー型認知症とは、最近の記憶がなかったり、思い出せない、時間や場所が分からなくな

ります。

レビー小体型認知症とは、実際には居ない人が見える(幻視・幻聴)、寝ている時に怒鳴つたり奇声を上げたりする異常言動がみられます。血管性認知症は、脳梗塞や脳出血などによつて発症する認知症の事を示します。

前頭側頭型認知症とは、ピック病とも言われ、前頭葉や側頭葉が萎縮して起こる事です。特徴としては、行動の異常や人格の変化、言語障害が見られます。

介護の仕事を始め、もう少しで3年半です。今の会社では学ぶところが多く、やりがいのある仕事だと思つています。

よく最近駅などで耳にするのが「もう、ご飯食べれないんだつて。胃瘻なんてしないでねえー。胃瘻してまで生きていたくないわ。胃瘻が始まったら、どれくらい生きるの？えっ。2ヶ月？胃瘻するようになってたら終わりよね。延命治療してまで生きたくないわね。介護する方も大変なのよ。」

とおばあちゃん達が話しているのを聞きます。胃瘻とは、何らかの影響で嚥下ができない方が、胃に穴を開け、直接栄養を送り込む装置のことです。実際、私の施設にも胃瘻をされている方が居ますが、私の意

見では、素敵な事だと思ひます。

実際、胃瘻をされている方は、話もされずし、痛い、面白くないなど感じられます。はつきり意識があるのです。多分知らない方は、想像で、何の意識も無い死んでもおかしくない状態なのに胃に穴まで開けて生かされていくと思つてらつしやるのでしようか。

現に、胃瘻されている方も認知の度合いにもよりますが、自分たちが話しかけたりすれば、話をしてくれたり、笑つたり話せない方でも感情を感じられる同じ時間を過ごしています。もし自分のお母さんが嚥下に障害ができ

てご飯を食べられなくなつたら、点滴で看取つたりはしません。胃瘻をすれば生かされるのなら私はそれを選びます。中でも、家族の方が胃瘻を拒否し点滴で最期看取つた方がいますが、「おなかすいた」と言われていました。看取つていく中で一番つらい光景だと私は思います。しかし、胃瘻は感染症の問題もあつたりするので、医師と相談しながら決めていく事をおすすめします。

